



2013年度 年次報告書

# KIF ANNUAL REPORT



公益財団法人 **かながわ国際交流財団**  
**Kanagawa International Foundation**



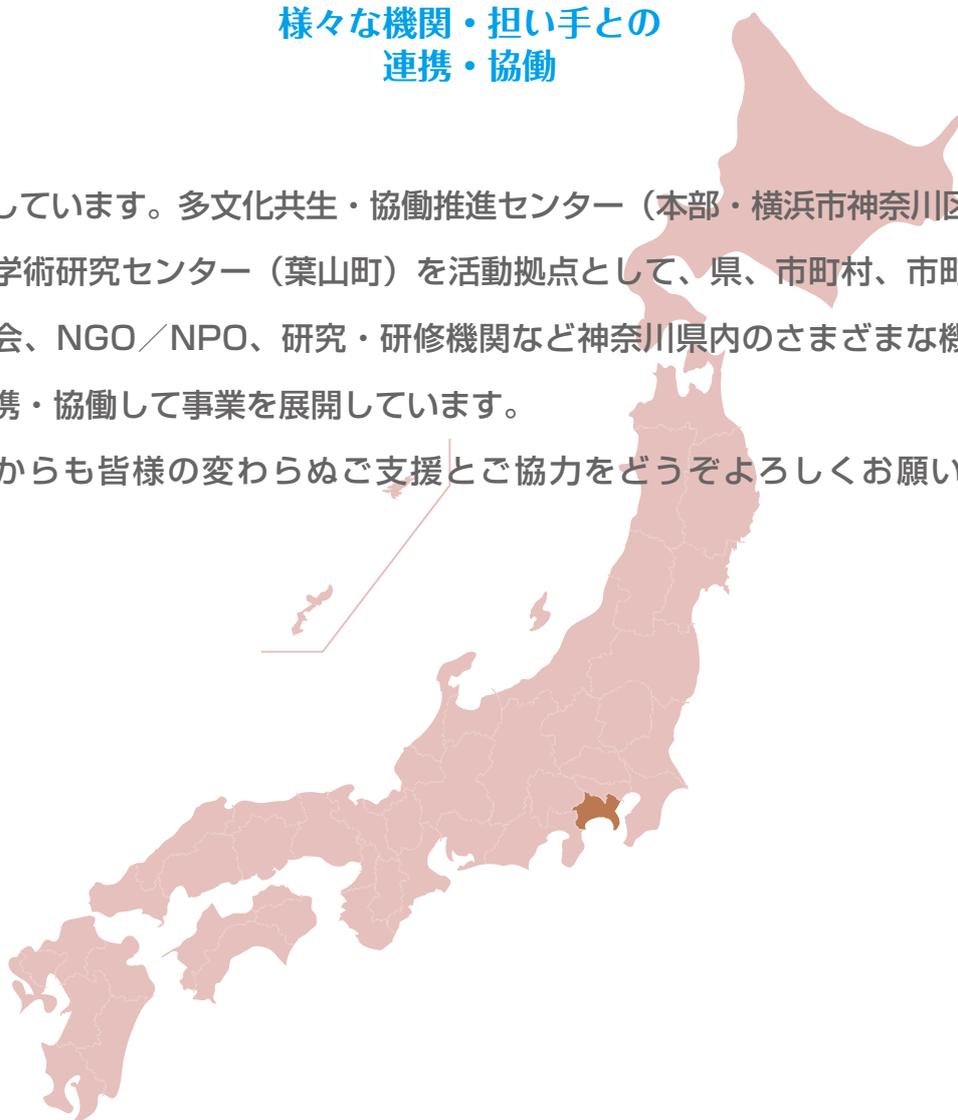
かながわ国際交流財団（KIF）は、全国に先がけ神奈川県と県内市町村、企業等により設立された、国際交流の分野で県内全域をカバーする団体（※）です。すべての人が、国境や人種、文化の違いをこえて、いきいきと心豊かに暮らせる社会を形成し、国際性豊かな人材を育て、地域からの将来像を提案するため、4つの事業の柱  
Ⅰ 多文化共生の地域社会かながわづくり Ⅱ 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進 Ⅲ 国際性豊かな人材の育成 Ⅳ 学術・文化交流の促進 のもとで事業





を展開しています。多文化共生・協働推進センター（本部・横浜市神奈川区）と湘南国際村学術研究センター（葉山町）を活動拠点として、県、市町村、市町村の国際交流協会、NGO／NPO、研究・研修機関など神奈川県内のさまざまな機関・担い手と連携・協働して事業を展開しています。

これからも皆様の変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



※当財団は、1977年設立の（財）神奈川県国際交流協会（KIA）と1992年設立の（財）かながわ学術研究交流財団（K-FACE）が統合し、2007年4月に（財）かながわ国際交流財団（KIF）として新たなスタートを切り、2012年には公益財団法人に認定されました。



# KIFの事業を構成する4つの柱

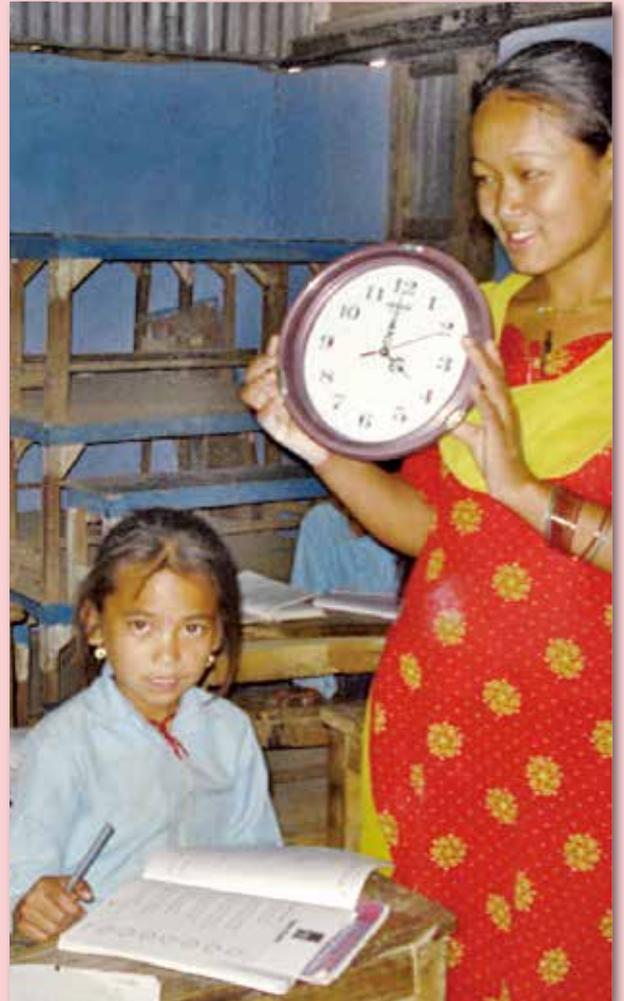
## I



### I 多文化共生の地域社会 かながわづくり

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化や違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことができるよう、外国人住民への情報提供と安全サポート、外国人コミュニティとの連携、外国につながる子どもたちへの支援、多文化理解の促進などさまざまな取り組みを行っています。

## II



### II 県民・NGO等との連携・ 協働による国際活動の促進

「かながわ国際協力基金」の運用益を活用して県内のNGO/NPOが実施する先進的かつニーズの高い国際活動（海外協力、国内協力、担い手育成など）と、県内各地で実施される外国人住民の社会参画や自立を促進するための取り組みに助成を行っています。

### Ⅲ



### Ⅲ 国際性豊かな人材の育成

国連大学や首都圏を中心とする大学等とのネットワークを活かし、環境、開発、貧困などの地球的規模の課題解決に必要な視野を持ち、国際社会で活躍できる人材を育てます。またグローバル化の進展に伴う地域の多文化化に対応できるよう、多文化共生の地域社会づくりを担う人材を育成します。特に、大学院・大学生、高校生世代、留学生などの若い世代を対象にしています。

### Ⅳ



### Ⅳ 学術・文化交流の促進

学術・文化交流を通じ、魅力あるかながわを創造するための知恵を国内外から吸収・蓄積し、グローバル化の中で特色のある地域文化の再生・振興を図りながら、「持続可能なかながわの地域社会づくり」に貢献します。

地域から将来像を提案する取り組みや、これからのミュージアムなどの文化施設が果たす機能や社会的役割について考える取り組みを行っています。

# I 多文化共生の地域社会かながわづくり

## ●外国人住民に情報を提供しました



外国人住民が安心して生活し、必要な情報が確実に届くよう、電子メール、ホームページ、印刷物など、いろいろな方法で情報を提供しました。

### ●電子メール

外国人住民に役立つ行政・生活情報等を多言語で編集し、登録者に対し、多言語情報メール「INFO KANAGAWA」の配信を行いました。

### ●ホームページ（アクセス数：33,229件）

外国人住民が自分の病気やけがの症状を医師に伝えるためのツールである「多言語医療問診票」の全面リニューアルを行いました。また、県内の教育・労働・すまい・相談窓口などの情報をまとめた「かながわ多言語生活ガイド」等をホームページに公開しました。

### ●印刷物

外国人保護者を対象に、子どもの予防接種のスケジュールや注意点について多言語でまとめたリーフレット等を作成しました。

## ●災害に備え安心と安全をサポートしました



災害時における外国人住民への情報提供を円滑に行えるよう、神奈川県国際課やNPO 法人多言語社会リソースかながわ（MIC かながわ）と連携し、「神奈川県災害多言語支援センター」の設置・運営訓練を行いました。また、県内の政令市及び国際交流団体に呼びかけ、災害時外国人支援のための連絡会を開催し、情報交換と演習を行いました。外国人住民に対しては、防災啓発ポスター&チラシ「災害への備えは大丈夫？」を作成し、県域に普及しました。



## ●外国人コミュニティとの連携を強化しました

### ●「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」を運営しました

外国人住民の暮らしに役立つ情報、支援者が使えるツール、多文化共生をテーマとした交流イベントなどいろいろな情報をまとめたポータルサイトを運営し、併せて外国人コミュニティとの連携も強化しました。

・アクセス数：39,620件 ・情報掲載数：135件

### ●外国人コミュニティとの情報交換会を開催しました

外国人コミュニティとKIF、外国人コミュニティ同士のネットワークの形成や情報交換などを目的とし、意見交換会を2回開催しました。

・参加者数合計：19名（中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジル、ペルー、ベトナム、カンボジア、ネパール、ラオス）

・テーマ：日本語の学習意欲を向上させるための取り組み

多文化共生の地域づくりのための助成金申請の演習



## ●外国人住民の総合支援のためのモデル事業を実施しました



平塚市において、外国人住民が抱える困難な生活課題に取り組むため個別支援を行いました。また、外国人住民同士のゆるやかなつながりづくりと、情報提供やコミュニケーション支援を目的に、保育園の協力を得て「多文化子育てサポート窓口」を開設しました。外国につながる子どもたちに向けては、放課後の学習支援教室を開設し運営しました。

それらの成果を報告するためフォーラムを開催し、テーマ毎に外国人住民をサポートするポイントをまとめたリーフレットを発行しました。その他、教員や自治体職員の研修に協力しました。

## ●外国につながる子ども支援の取り組みを進めました



県・市町村教育委員会やNGO/NPO等の間で情報と意見の交換を行う会議等を開き、子どもをサポートするノウハウや先進事例等の紹介を行うとともに、市町村教育委員会と連携・協力し、国際教室担当教員や日本語指導協力者を対象に研修を実施しました。また、「外国につながる子どもと学習のつまづき」をテーマに学習会及びフォーラムを開催しました。

学校や支援の現場で活用できるガイドブック「あるあるマンガでよむ外国につながる生徒の高校進学サポートガイド～困ったときの10のヒント」を作成し、学校や地域の現場に普及しました。

## ●多文化理解を促進するため講演会や講師派遣を行いました

多文化理解を促進する講演会を開催しました（計2回）。また、財団職員を研修会の講師として派遣（計9回）しました。神奈川県内で最大の多文化共生関連イベントである「あーすフェスタかながわ2014」には実行委員及び企画委員として参加しました。



## Ⅱ 県民・NGO等との連携・協働による国際活

### 2013年度は、7件の事業への助成が決定しました

#### ●緊急支援活動～フィリピン台風被害への復興プロジェクト



- 団体名：NPO法人草の根援助運動
- 事業名：フィリピン台風30号被害漁村復興のための住民組織化を基盤とする漁船支援プロジェクト（助成予定額：3,326,000円）
- 主たる活動地域：フィリピン（東サマール州）
- 事業の概要：2013年11月の強力な台風30号により甚大な被害を受けたフィリピン・東サマール州の3つの村において、漁民組織の強化および結成を支援し、漁民が相互に助け合って生活していけるよう、漁船の供与を中心とした生計回復のための取り組みを実施します。あわせて女性組織の結成を支援し、女性組織のイニシアティブによる生計回復のための支援も実施します。

#### ●海外協力活動～チベット難民の青年たちへの自立支援



- 団体名：チベタン・チルドレンズ・プロジェクト
- 事業名：チベット難民のチベット医学生と青年への自立支援プロジェクト（助成予定額：382,000円）
- 主たる活動地域：ネパール（カトマンズ）
- 事業の概要：ネパールで暮らすチベット難民、特にチベット医学を目指す学生と青年たちに、第三国で自活していける可能性を具体的に示し、そのためのスキルを身につける手助けをします。チベット医学生には日本の鍼灸のスキルを、青年たちには介護やあんまのスキルを、ボンポチベット医学校と共同で行います。

#### ●国内協力活動～外国人集住地域での相談活動、子どもへの学習支援



- 団体名：NPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾
- 事業名：在日外国人のための教育・生活・人権などにかかわる伴走型相談・「支援」事業（助成予定額：2,000,000円）
- 主たる活動地域：横浜市（南区）
- 事業の概要：多くの外国人住民が暮らしている横浜市中区と南区において、相談者に伴走しながら、地域で暮らす外国人住民の教育・生活・人権に関する相談を受ける活動です。外国人住民から多言語で相談を受け、学校や行政など様々な関係機関と連携をしながら、相談者に寄り添い、問題解決のサポートを行います。



- 団体名：非営利組織「小さな森の学校」
- 事業名：土曜寺子屋（学習支援）（助成予定額：250,000円）
- 主たる活動地域：愛川町・厚木市
- 事業の概要：外国につながるのある子どもが多い愛川町と厚木市で、学習支援を必要としているが、経済的な理由で塾などに通う機会を得られない小・中学生を対象として、原則的に無償で主要教科の学習支援および相談活動を行います。また、学習につまづき、悩む子どものニーズに応えられる人材を地域に増やす取り組みも行います。

# 動の促進（「かながわ民際協力基金」助成事業）



- 団体名：多文化まちづくり工房
- 事業名：集住地域における外国人住民のための相談体制充実事業（助成予定額：1,250,000円）
- 主たる活動地域：横浜市（泉区）
- 事業の概要：多くの外国人住民が暮らしている横浜市泉区と大和市にまたがるいちょう団地において、ベトナム語、カンボジア語、中国語など地域のニーズが高い言語で、生活相談、情報発信、通訳者の育成など、外国人住民の生活をサポートする事業を行います。

## ●多文化共生の地域社会づくりの応援



- 団体名：NPO法人日本ペルー共生協会
- 事業名：AJAPE（アハペ）よみきかせの会（助成予定額：200,000円）
- 主たる活動地域：大和市
- 事業の概要：外国にルーツを持つ子どもたちは、学習になると分からない・知らない語彙や表現がたくさんあります。この事業では、子どもたちが楽しく自立的に学習していけるよう、モンセラ・サルト『読書へのアニメーション』を参考にした絵本の読み聞かせを行います。

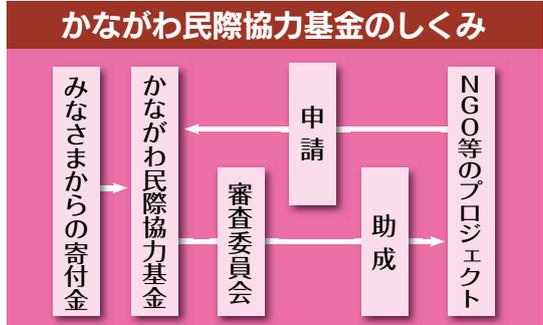


- 団体名：多文化活動連絡協議会
- 事業名：外国につながるを持つ中学世代と保護者への情報提供と学習支援者の育成・連携作りプロジェクト（助成予定額：200,000円）
- 主たる活動地域：川崎市
- 事業の概要：高校進学に関する情報を必要としている子どもや保護者に情報を提供し、不安を解消するため相談会を開催します。受験後も子どもたちをフォローし、情報を共有することにより、子どもたちが抱える課題について社会への啓発に取り組みます。また、講座を開催し支援者を育成する活動も行います。

## 「かながわ民際協力基金」について

かながわ民際協力基金は、貧困と飢餓、環境、人権、平和など、地球規模の課題の解決と「共に生きる」開かれた地域社会づくりをめざして1993年に設置された基金です。その運用益を活用し、かながわのNGO/NPOが実施する先進的な事業に助成を行っています。

2013年度からは、「多文化共生の地域社会づくり応援事業」という新しい助成の枠組みを設置しました。県内各地の実情やニーズに合った多文化共生の取り組みを支援することにより、県内全域において持続可能な多文化共生の地域社会づくりを進めています。



かながわ民際協力基金に関するデータ（2014年3月31日現在）

|     |              |      |      |          |    |
|-----|--------------|------|------|----------|----|
| 基金額 | 673,911,578円 | 助成件数 | 117件 | 協働事業(※1) | 6件 |
|-----|--------------|------|------|----------|----|

(※1) 協働事業は、NGO/NPOとKIFが協働で実施する、国内協力、担い手育成などの事業です。2013年度をもって休止しています。

●助成件数の内訳（計117件）

| 海外協力 | 国内協力 | 担い手育成 | 団体活動充実 | 緊急支援 | 多文化共生の地域社会づくり応援 |
|------|------|-------|--------|------|-----------------|
| 32件  | 60件  | 12件   | 6件     | 5件   | 2件              |

●助成及び負担金の総額

|          |              |               |            |
|----------|--------------|---------------|------------|
| 助成総額(※2) | 141,385,275円 | 協働事業における負担金総額 | 3,047,602円 |
|----------|--------------|---------------|------------|

(※2) ここでの助成総額とは、完了した事業への助成確定額と、まだ完了していない事業への助成予定額を合算したものです。

## Ⅲ 国際性豊かな人材の育成

### ●世界情勢について学ぶ大学生・大学院生、留学生を支援しました

国連の問題や国際社会のあり方に関心を持つ大学との協力により、学部3、4年生と大学院生を主な対象として、世界情勢に即したテーマに沿って日英2か国語を使った3泊4日の「国連大学グローバル・セミナー湘南セッション」を国連大学と共催しました。

- 日 程 2013年9月2日（月）～9月5日（木） 3泊4日
- 会 場 湘南国際村センター
- 講 師 黒川清（政策研究大学院大学アカデミックフェロー）他12名
- 対 象 大学生、大学院生、留学生
- テ ー マ 新しいエネルギー選択が切り開く持続可能な未来
- 参加者数 81名



### ●アジアについて学ぶ大学1、2年生と留学生を支援しました

経済活動や文化の交流がますます活性化し、アジア地域の相互依存が深化するとともに、未来のアジア地域社会を担う人材の育成が急務です。「インカレ国際セミナー」は、「アジアの一員」としてアジア地域の諸課題や現状を理解できる国際人を育てるセミナーとして、首都圏の約10大学の協力により開催しました。

- 日 程 2013年11月29日（金）～12月1日（日） 2泊3日
- 会 場 湘南国際村センター
- 講 師 青木保（国立新美術館館長、元文化庁長官）他
- 対 象 学部1・2年生、留学生
- テ ー マ アジアの中の日本～信頼形成への道
- 参加者数 85名



### ●県内高校における国際教育を支援しました

県内の高等学校を対象に、講演会やワークショップ等の各種プログラムについて相談に応じ、高校生が地域と世界へ興味・関心を持つよう、KIFの国際教育のノウハウやネットワークを活用し、講師を派遣して国際教育を支援しました。

- 日 程 2013年5月～2014年3月
- 会 場 神奈川県内の高等学校
- 内 容 講演、ワークショップなど
- 実施数 20校

県立平塚商業高校、県立横浜清陵総合高校、県立横須賀大津高校、県立横須賀光明高校、県立横浜平沼高校、県立保土ヶ谷高校、県立金沢総合高校、県立横浜翠嵐高校、県立氷取沢高校、県立茅ヶ崎西浜高校、県立城郷高校、私立橘学苑高校、私立横浜創学館高校、県立百合丘高校、県立麻生総合高校、県立横須賀高校（定時制）、県立弥栄高校、県立伊志田高校、県立柏陽高校、県立追浜高校（実施順）



### ●高校生世代が世界に目を向けるための支援をしました

「世界の入口に立とう」を共通のテーマとして、高校生世代が世界に目を向けること、多角的視点を獲得することを目的として青少年国際セミナーを開催しました。第1回は、土屋陽介氏（茨城大学非常勤講師／立教大学兼任講師／子どものための哲学教育研究所主宰）を、第2回は、池田香代子氏（ドイツ文学翻訳家／口承文芸研究家）らを講師に迎え、合計で92名の参加がありました。

また、県内の高等学校が企画した国際に関するプログラムの企画・実施において協力をし、延べ人数で500名の参加がありました。



## ●留学生を支援しました

神奈川県から「グローバル人材支援事業」を受託し、かながわ県民センター2階に開設された交流・情報発信スペース「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION (カナファン・ステーション)」の運営と、同ステーション及び他会場でイベントの開催、情報提供・相談を行いました。

イベントとしては、「かながわ国際ファンクラブ」の会員の留学生等とサポート会員（支援団体等）との交流会（カナファン交流会）を開催し、148名の参加がありました。

また会社説明会や就職支援セミナー、企業見学会、住まいに関する相談をはじめ各種相談に応じる相談会を開催しました。さらに、留学生を支援する「サポート・ファミリー」と留学生とのマッチングを行い、21組が成立、支援と交流の輪を広げました。



※日総グループ(株)総工産・(株)日総ブレインと連携して実施(ステーション運営事業、就職支援事業)。

## ●グローバル人材を支援しました

高校生等若い世代の視野を広げ、コミュニケーション能力を伸ばすための事業として、県内の学校で「青少年国際セミナー」及び「学校訪問事業」を実施しました。留学生に講師として活躍する場を提供し、セミナーでは留学生と日本の若い世代が相互に交流しながら世界への関心を高められるようにしました。

ステーションにおいては、月1回、様々な国出身の留学生と神奈川県の高校生・大学生が交流する「インターナショナル・カフェ」を行いました。その他、各国の留学事情や留学支援制度などの情報を提供する講座を開催しました。



## ●留学生・グローバル人材を支援するために情報を発信しました

ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」をリニューアルし、留学生・グローバル人材、支援者に向けて情報を発信しました。同時にfacebookページの開設と運営をしました。

また、観光、県の取り組みや政策、留学生支援などの情報を発信するメールマガジン「かながわ国際ファンクラブ通信」の編集を行いました。

- ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」  
<http://www.kanafan.jp>
- ポータルサイトのユーザー数 8,036件
- アクセス数 54,341件



## Ⅳ 学術・文化交流の促進

### ●多様な視点から「コミュニティの再生」を考え、将来像を提案しました

グローバル化の進展により、地域文化の喪失や生活様式の画一化という影の部分が大きくなり、また、東日本大震災を経験し、あらためて人や地域社会の絆の大切さが見直されています。こうした社会的背景を踏まえ、多角的な視点からコミュニティの再生について考える「21世紀かながわ円卓会議」を開催しました。テーマを『地域力をいかに育てるか～“分かち合い”で築くかながわの未来Ⅱ』とし、多分野の研究者、自治体首長、ジャーナリスト、実務家などが集い、県内の取り組みや課題を踏まえた複数のセッションを設定し多様な視点から議論を展開しました。

- 日 程 2013年11月9日（土）～10日（日）
- 会 場 湘南国際村センター
- モデレータ 神野直彦（東京大学名誉教授）
- 講 師 内山節（哲学者、立教大学教授）ほか
- 参加者数 48名



### 若者世代 集まれ！ ミニ円卓会議を開催

超高齢社会に向けた取り組みなど、自分たちで社会をつくるためのアイデアを参加者が発表し、それについて話し合うミニ円卓会議を開催しました。

- 日 程 2014年2月22日（土）
- 会 場 湘南国際村センター
- 講 師 森田洋之（内科医／前夕張市立診療所所長）、加藤忠相（小規模多機能型居宅介護事業所おたがいさん代表者）、大郷和成（新戸塚病院主任作業療法士）
- 参加者数 36名



### ●湘南国際村の知的資源や研究活動の成果を発信しました

湘南国際村学術研究センターが、湘南国際村にある総合研究大学院大学（総研大）や（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）などの研究機関や神奈川県立保健福祉大学と連携し、それらの知的資源を県民に還元する事業として、「湘南国際村アカデミア」と「湘南国際村カフェ・インテグラル」を開催しました。





## ● これからのミュージアムが果たす機能や役割について考えました

グローバル化の進展により衰退しつつある地域文化を再生・継承し、人々の創造性を高める美術館・博物館・図書館等の教育・文化施設の活性化のため、国内外から講師を招き、「第6回・21世紀ミュージアム・サミット」を開催しました。

今回は、「ミュージアムが社会を変える～文化による新しいコミュニティ創り～」をテーマとし、文化政策と政治との関係に焦点を当てました。フランスの元文化大臣ジャック・ラング氏によるルーヴル美術館の大改革に関する講演を始めとし、イタリア、韓国、オーストラリアなどの文化政策や、東日本大震災を経た日本国内での活動の事例等を紹介し、今後の取り組む課題について幅広く討論しました。当日は大雪の中の開催となりましたが、参加者の熱気が会場にあふれていました。

- 日 程 2014年2月8日（土）～9日（日）
- 会 場 湘南国際村センター
- 講 師 ジャック・ラング（フランス元文化大臣）、中山恭子（参議院議員）、金英順（韓国・美術史家）、エドアルド・クリサフリ（駐日イタリア大使館文化アタッシェ）、ベルナルド・ドゥ・モンフェラン（FRAC理事長、元駐日フランス大使）、高階秀爾（大原美術館館長、西洋美術振興財団理事長）、建畠哲（埼玉県立近代美術館館長、京都市立芸術大学学長）、蓑豊（兵庫県立美術館館長）、水沢勉（神奈川県立近代美術館館長）ほか
- 参加者数 116名



## ● 持続可能な地域社会づくりを目指して、調査研究を実施しました

地域の政策課題の中から、緊急性が高く、中長年に影響が及ぶテーマとして「社会的マイノリティの参画が可能となる自治体の仕組みづくりに関する現状と課題」を選定し、名和田彦氏（法政大学教授）等の助言のもと、2013年度から2か年にわたる研究に取り組んでいます。



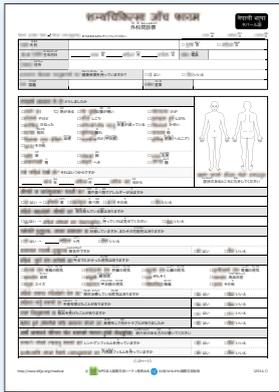
# KIFの出版物・ツール等のご案内

全ての情報は、KIFのホームページ及び「かながわ・こみゆにてい・ねっとわーく・さいと」

## 多言語医療問診票

医療機関で病気やけがの症状を伝えるときに使えます

NPO法人ハーティ港南台と協働で作成したホームページにネパール語・精神科の問診票の追加を新たに行い、診療科目の案内などを加えリニューアルしました。



- 言語数：18言語（中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、インドネシア語、カンボジア語、ネパール語、ラオス語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ペルシャ語、アラビア語、クロアチア語、日本語は各言語に併記）
- 科目数：11科目（内科、外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科）

## かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ

ボランティアが運営している教室情報を地図付きでご案内します

神奈川県内の日本語教室・学習補習教室・母語教室の情報を探しやすいまとめてホームページで紹介しています。



- 掲載件数：132件（日本語教室80件、学習補習教室37件、母語教室15件）
- ※横浜市、川崎市、横須賀市の日本語教室の情報は、それぞれ（公財）横浜市国際交流協会、（公財）川崎市国際交流協会と川崎日本語連絡会、NPO法人横須賀国際交流協会のホームページにリンクしています。

## かながわ・こみゆにてい・ねっとわーく・さいと

外国人住民の暮らしを支えるポータルサイトです

外国人住民の暮らしに役立つ情報、支援者が使えるツール、多文化共生をテーマとした交流イベントなどいろいろな情報をまとめたポータルサイトです。



- 掲載した情報の例：外国人コミュニティや支援団体などが開催する交流イベント、外国人のための無料健康相談会、多言語の高校進学ガイダンス、多文化共生に関するセミナー・フォーラム・資料の紹介など

## 災害への備えは大丈夫？

外国人住民向けの防災啓発ポスター&チラシです

非常持出袋や備蓄品など災害の備えについてイラストを使い多言語で説明しています。チラシは、地域や自治会で開催する防災訓練などでも活用できます。



- 発行：2014年3月
- 対応言語：5言語（やさしい日本語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、英語）

からご覧いただけます。

## 外国人保護者のための予防接種のしおり

予防接種の情報が届くように

外国人保護者向けに子どもの予防接種について多言語でまとめたリーフレットです。予防接種のスケジュールや、気をつけることなどが書いてあります。



■発行：2014年3月

■対応言語：10言語（中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語、日本語は各言語に併記）

## 外国につながる親子のための入園のしおり

保育園での保護者との円滑なコミュニケーションのために

外国につながる親子に保育園での生活や持ちものを説明するときの資料です。各言語のWordファイルをダウンロードし、保育園ごとに、用語や時間などを入力して活用できます。



■発行：2014年3月

■対応言語：9言語（やさしい日本語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、カンボジア語、ラオス語）

## 外国につながる生徒の 高校進学サポートガイド

子どもたちの高校進学をサポートするための冊子です

日本社会で育つ外国につながる子どもたちが、将来を切りひらいていく上で大きな分岐点となるのは高校進学です。マンガを使って、高校進学の課題、支援情報を紹介しています。



■発行：2014年3月

■これまでに作成したガイドブック：『外国につながる子どもの未来を支えるために～5年後、10年後を見据えて成長を見守るヒント～』（2013.3）、『外国につながる子どもがホッとする授業づくり～教科書を活用したアイデア集～』（2012.3）、『日本生まれの外国につながる子どもたち～どうやってサポートすればいいの？～』（2011.3）

## 外国人住民サポート アイデア集

自治体や自治会等でご活用ください

「多言語情報」「防災・減災」「健康・保健」「出産・子育て」「コミュニティ」の5つのテーマで、外国人住民をサポートするときのヒントや情報を紹介しています。



■発行：2014年3月

■それぞれの内容：①多言語情報編「多言語情報を届けるポイント」「色々な媒体を活用して」、②防災・減災編「災害に備えるために」「災害発生時に活用できるリソース」、③健康・保健編「外国人住民の健康のために」「医療サービスをより安心して受けるために」、④出産・子育て編「妊娠から出産まで」「乳幼児期から就学まで」、⑤コミュニティ編「多文化クイズ」「神奈川県に住む外国籍の人々」



# KIFの出版物のご案内

## 知をめぐる対話

湘南国際村学術研究センターが発行したインタビュー集です

- **私たちの世界**：榊山紘一（東京大学名誉教授／印刷博物館館長）「国際政治も人と人のつながりでー」、藤原帰一（東京大学大学院法学政治学研究科教授）「国際政治学と映画と私」、田中均（元外務審議官）「東アジア共同体構想の再考」
- **豊かに生きる**：竹内恒夫（地球環境戦略研究機関上席研究アドバイザー）「今度の冬は薪も多めに準備しておかないとー」、池内了（総合研究大学院大学葉山高等研究センター長）「ゆっくりと変わる私たち」、江藤裕之（長野看護大学外国語講座准教授／湘南国際村学術研究センター客員研究員）「『名著』と『器』～知りで豊かな人生とは」
- **女性と自立**：坂東真理子（昭和女子大学学長）「ギア・チェンジで乗り切れ！ー育児と仕事の両立ー」、山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学学長）「無理なく、違和もなく」
- **アート之力**：建昌哲（国立国際美術館長）「ある美術館をめぐる物語」、北川フラム（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役）「市民生活とつながるアートを」、山梨俊夫（神奈川県立近代美術館長）「かわるもの・かわらないもの」
- **未来を描く**：小平桂一（総合研究大学院大学学長）「人類の世界観を新しくしたいー」、鈴木佑司（法政大学法学部教授）「かながわの国際化を見つめて」、神野直彦（東京大学大学院経済学研究科教授）「時代の転換点に向き合うこと、未来を描くこと」



■2009年9月発行  
70頁／定価500円（税込）

## 知をめぐる対話 vol.2

湘南国際村学術研究センターが発行のインタビュー集2作目です

- **絵の力、言葉の力**：佐伯胖（青山学院大学教授）「絵を見ること、わかること、それが文化的実践になるとき」、高島肇久（株式会社日本国際放送代表取締役社長）「言葉の重み～どのように培い、どのように伝えるか」、武部恭枝（コミュニケーション戦略コンサルタント／国際会議同時通訳者）「名著との対話がリーダーシップを創る」
- **社会を見つめ直し、理念を描く**：野村雅一（総合研究大学院大学理事・副理事長／国立民族学博物館名誉教授）「進む社会的な記憶喪失～いま私たちに求められるもの」、色平哲郎（JA 長野厚生連・佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長）「病める日本と命の格差に向き合う」、諸富徹（京都大学大学院経済学研究科教授）「『冷静な頭脳と温かい心』で経済ビジョンを」、大芝亮（一橋大学大学院法学研究科教授）「東アジアの進むべき道とは～取り残される人々のいない社会をめざして」
- **ひと、そして市民社会を育む**：滝田賢治（中央大学法学部教授）「今を生きることーそれを次世代に生かすこと」、田中弥生（独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授）「今、求められる市民性の創造ーNPOの課題と可能性」、川崎あや（特定非営利活動法人アクションポート横浜理事）「異端を恐れるなかれ～私の市民活動論」



■2011年2月発行  
56頁／定価400円（税込）

## 地域力を鍛える

2012年度の21世紀かながわ円卓会議の講演概要です

「分かち合い」で築くかながわの未来」をサブタイトルに、建築家・伊東豊雄氏の基調講演や県内での活動事例報告などを踏まえ、多様な視点から「地域力を鍛える」ための鍵を考えました。



■2013年11月発行／72頁／定価400円（税込）

## 新しいかながわを築く

2011年度の21世紀かながわ円卓会議の講演概要です

コミュニティを支える医療・教育・文化をサブタイトルに、実務家・研究者の講師陣に加え、県内事例を織り交ぜ、コミュニティについて多様な視点からアプローチしています。



■2011年2月発行／56頁／定価400円（税込）

## 地域に生きるミュージアム

「第5回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

ミュージアムを使う人、運営する人、作る人、さまざまな立場からミュージアムに関わっている人々が集い、直面する課題を解決するために討論した記録です。



■2013年2月発行／(株)現代企画室／235頁 本体価格2,000円+税  
ISBN : 978-4-7738-1301-2

## 100人で語る美術館の未来

「第4回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

「第4回サミット」の内容と、後日行われた美術館関係者及び美術館を取り巻く多彩な専門家による座談会・インタビューを収録。アートの本質と美術館の社会的な意義が多様な視点から紹介されています。



■2011年2月発行／慶應義塾大学出版会／236頁 本体価格2,500円+税  
ISBN : 978-4-7664-1801-9

## ミュージアム新時代

「第3回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

美術館建設ラッシュの続く中国。拡張路線を探るルーヴル美術館。美術館に押し寄せる変化の波に対し、世界の美術館長たちはどのようなビジョンをもって取り組んでいるのか、白熱した議論を収録しました。

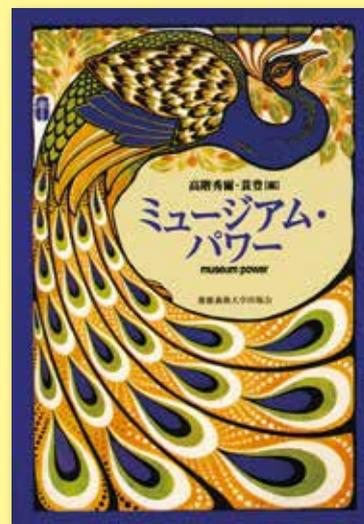


■2009年3月発行／慶應義塾大学出版会／348頁 本体価格2,500円+税  
ISBN : 978-4-7664-1608-4

## ミュージアム・パワー

「第1回、第2回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

美術館の現状、あるべき姿とその実現に向けての挑戦をめぐる各国の美術館トップによる白熱の討論の記録です。



■2006年11月発行／慶應義塾大学出版会／296頁 本体価格2,500円+税  
ISBN : 4-7664-1306-7



# KIFにご寄付をいただいた 団体などからのメッセージ

## 神奈川県教職員組合

神奈川県教職員組合は、子どもたちにゆとりある豊かな教育を保障するため、様々な活動にとりくんでいます。「外国につながる子どもがホッとする授業づくりのネタ」と題したワークショップを、(公財) かながわ国際交流財団と連携し、「かながわ教育フェスティバル」において開催しました。

今後も、外国につながるのある子どもたちにかかわる活動を中心とした多文化共生の地域社会づくりや地域社会の推進をすすめていきます。

神奈川県教職員組合ホームページ <http://www.ktu.or.jp>

## ゆめ観音実行委員会

ゆめ観音実行委員会では、毎年9月に大船観音を会場に「ゆめ観音アジアフェスティバル」を開催しております。舞台ではアジア各国各地域の民族・宗教・人種を超えた舞踊や音楽が披露され、会場には食や民芸品、フェアトレード製品のブースが並びます。私たちは、(公財) かながわ国際交流財団の、アジアを支援する活動に賛同し微力ながら協力させていただいています。

ゆめ観音公式ホームページ <http://soto-zen.net/yume>

## 2013年度にKIFにご寄付を いただいた企業・団体 (順不同)

在日本大韓民国民団神奈川県地方本部  
神奈川県高等学校教職員組合  
株式会社 滝田商会  
西田装美株式会社  
南サークル  
学校法人石川学園横浜デザイン学院  
有限会社 青史堂印刷  
生活クラブ生活協同組合  
生活協同組合ユーコープ  
テラインターナショナル株式会社  
株式会社 中萬学院

※その他個人の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございます。



# ご寄付のお願い



## ● 寄付金の活用について

当財団の事業は、県からの補助金、基本財産の運用益、会員の方々からいただいた会費のほか、皆さまのご寄付によって運営されています。次の4つの事業からご希望の事業を指定して寄付していただくことができます。当財団へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

1. 多文化共生の地域社会かながわづくり
2. 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進
3. 国際性豊かな人材の育成
4. 学術・文化交流の促進

## ● ご寄付は郵便振替で

金融機関及び口座番号 ゆうちょ銀行 00280-4-49894

加入者名 公益財団法人かながわ国際交流財団

※通信欄には、指定する事業名または番号（1～4）を上記から選んでご記入ください。指定がない場合は当財団で用途を決めさせていただきます。

※銀行振込をご希望の方はお問い合わせください。

※当財団は平成24年4月1日に公益財団法人へ移行しましたので、所得税・法人税の優遇措置が受けられます。詳しくは国税庁のホームページをご覧ください。

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1150.htm>

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/hojin/5283.htm>

## ● ご寄付に関する問合せ先

（公財）かながわ国際交流財団 寄付担当

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8

TEL: 045-620-0011 FAX: 045-620-0025 E-mail: chosei@kifjp.org

## 貸借対照表

2014年3月31日現在

(単位：千円)

| 科 目               | 2013年度      | 2012年度      |
|-------------------|-------------|-------------|
| <b>I 資産の部</b>     |             |             |
| <b>1. 流動資産</b>    |             |             |
| 現金預金              | 30,994      | 67,525      |
| その他               | 777         | 4,623       |
| 流動資産合計            | 31,771      | 72,148      |
| <b>2. 固定資産</b>    |             |             |
| 基本財産              | 675,640     | 675,640     |
| 特定資産              | 3,713,030   | 3,765,683   |
| その他固定資産           | 4,967       | 5,780       |
| 固定資産合計            | 4,393,638   | 4,447,103   |
| 資産合計              | 4,425,409   | 4,519,252   |
| <b>II 負債の部</b>    |             |             |
| <b>1. 流動負債合計</b>  | 3,905       | 25,307      |
| <b>2. 固定負債合計</b>  | 42,320      | 42,320      |
| 負債合計              | 46,225      | 67,628      |
| <b>III 正味財産の部</b> |             |             |
| <b>1. 指定正味財産</b>  | 4,117,151   | 4,116,962   |
| (うち基本財産への充当額)     | (674,640)   | (674,640)   |
| (うち特定資産への充当額)     | (3,442,511) | (3,442,312) |
| <b>2. 一般正味財産</b>  | 262,032     | 334,661     |
| (うち基本財産への充当額)     | (1,000)     | (1,000)     |
| (うち特定資産への充当額)     | (228,198)   | (284,382)   |
| 正味財産合計            | 4,379,183   | 4,451,623   |
| 負債および正味財産合計       | 4,425,409   | 4,519,252   |

# 正味財産増減計算書

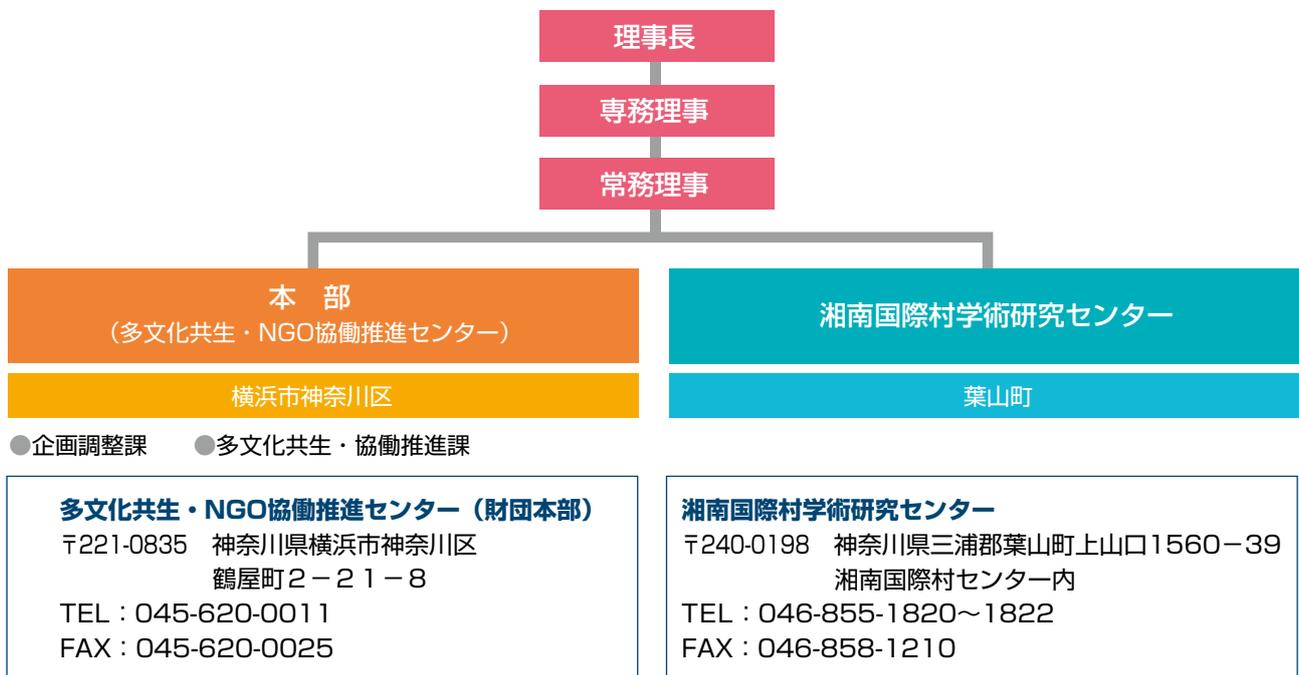
2013年4月1日～2014年3月31日

(単位：千円)

| 科 目                  | 2013年度           | 2012年度           |
|----------------------|------------------|------------------|
| <b>I 一般正味財産増減の部</b>  |                  |                  |
| <b>1. 経常増減の部</b>     |                  |                  |
| (1)経常収益              | 156,448          | 235,463          |
| (2)経常費用              | 229,077          | 282,153          |
| 評価損益等調整前当期経常増減額      | ▲72,628          | ▲46,690          |
| 投資有価証券売却損益等          | —                | 30,213           |
| 当期経常増減額              | ▲72,628          | ▲16,477          |
| <b>2. 経常外増減の部</b>    |                  |                  |
| (1)経常外収益             | —                | —                |
| (2)経常外費用             | —                | 59               |
| 当期経常外増減額             | —                | ▲59              |
| 当期一般正味財産増減額          | ▲72,628          | ▲16,536          |
| 一般正味財産期首残高           | 334,661          | 351,197          |
| 一般正味財産期末残高           | 262,032          | 334,661          |
| <b>II 指定正味財産増減の部</b> |                  |                  |
| 当期指定正味財産増減額          | 188              | 206              |
| 指定正味財産期首残高           | 4,116,962        | 4,116,755        |
| 指定正味財産期末残高           | 4,117,151        | 4,116,962        |
| <b>III 正味財産期末残高</b>  | <b>4,379,183</b> | <b>4,451,623</b> |



# KIFの組織図



# KIFの役員等一覧

2014年6月11日現在（50音順）

|            |        |                             |
|------------|--------|-----------------------------|
| 評議員<br>10名 | 柏木 教一  | 日本労働組合総連合会神奈川県連合会会長         |
|            | 三枝 康雄  | 東京成徳大学経営学部准教授               |
|            | 佐藤 光徳  | 神奈川県市長会常務理事兼事務局長            |
|            | 塩原 良和  | 慶応義塾大学法学部教授                 |
|            | 鈴木 和夫  | 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会理事兼事務局長    |
|            | 鈴木 順   | 神奈川県町村会常任理事兼事務局長            |
|            | 鈴木 佑司  | 法政大学法学部教授                   |
|            | 細谷 早里  | 関東学院大学経済学部教授                |
|            | 松野 勝民  | 特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ理事長   |
|            | 吉井 隆   | 三井不動産株式会社開発企画部 首席主幹         |
| 理事9名       | 福原 義春  | 公益財団法人かながわ国際交流財団理事長         |
|            | 水田 秀子  | 公益財団法人かながわ国際交流財団専務理事        |
|            | 武藤 誠   | 公益財団法人かながわ国際交流財団常務理事        |
|            | 岡田 泰伸  | 国立大学法人総合研究大学院大学学長           |
|            | 野田 昭彦  | 独立行政法人国際交流基金コミュニケーションセンター部長 |
|            | 林 義亮   | 株式会社神奈川新聞社取締役兼統合編集局長        |
|            | 丸谷 士都子 | 特定非営利活動法人地球の木理事長            |
|            | 森 茂岳雄  | 中央大学文学部教授                   |
| 監事2名       | 湧井 敏雄  | 一般社団法人神奈川経済同友会専務幹事          |
|            | 開発 錬司  | 公益社団法人観音崎自然博物館理事            |
|            | 三縄 昭男  | 公認会計士/三縄昭男公認会計士事務所所長        |



# 財団概要・沿革

## KIFの使命（ミッション）

世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川を目ざして、人と人、地域と地域の国際交流及び国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現、国際的な人材の育成並びに学術・文化交流を通じ地域文化の向上を図り、もって県民の福祉の向上と世界の平和と発展に寄与することを目的として設立。

|               |  |
|---------------|--|
| 1977（昭和52）年2月 | （財）神奈川県国際交流協会(KIA)設立   |
| 1987（昭和62）年4月 | 「神奈川県国際研修センター」の管理運営を県より受託  |
| 1990（平成2）年4月  | 「神奈川県国際学生会館・白根」を開館   |
| 1991（平成3）年4月  | 「神奈川県国際学生会館・淵野辺」を開館  |
| 1992（平成4）年10月 | （財）かながわ学術研究交流財団(K-FACE)設立  |
| 1993（平成5）年4月  | 「かながわ民際協力基金」を設置  |
| 1998（平成10）年1月 | KIAの事務所を「県立地球市民かながわプラザ」内へ移転  |
| 2003（平成15）年4月 | 「県立地球市民かながわプラザ」の管理運営を県より受託   |
| 2006（平成18）年4月 | 「県立地球市民かながわプラザ」を指定管理者として運営開始(5年間)                                      |
| 2007（平成19）年4月 | （財）神奈川県国際交流協会(KIA)と（財）かながわ学術研究交流財団(K-FACE)が統合し、（財）かながわ国際交流財団として新たなスタート |
| 2010（平成22）年3月 | 「神奈川県国際研修センター」の管理運営終了  |
| 2011（平成23）年3月 | 「県立地球市民かながわプラザ」の指定管理者としての運営終了  |
| 2011（平成23）年4月 | 事務所を横浜市神奈川区鶴屋町へ移転  |
| 2012（平成24）年4月 | 公益財団法人へ移行  |
| 2013（平成25）年3月 | 「神奈川県国際学生会館・白根」、「神奈川県国際学生会館・淵野辺」閉館                                     |
| 2013（平成25）年4月 | 「グローバル人材支援事業（かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION）」を県より受託                      |



# メディア掲載

神奈川新聞 2014年1月16日 (木)

## 訪問続々 外国人向けサイト



「インターネットの場でつながりづくりができれば」と話す藤分治紀さん 一かながわ国際交流財団

地域で暮らす外国人に教育、医療などの生活情報を提供するため昨春、開設されたポータルサイト「かながわ・こみゆにてい・ねつとわーく・さいと」の利用が広がっている。県内の外国人コミュニティの情報は豊富に掲載されており、訪問数は右肩上がり。運営するかながわ国際交流財団は「サイトの存在が広まることで支援の輪が大きくなれば」と話している。

(柏尾 安希子)

# 生活情報でつながる

## 日本語学習／医療／働く…

生活に不安を抱える外国人にとって、自分に必要な情報を探すことは至難の業。「ねつとわーく・さいと」では既存のサイトを日本語を学ぶ「病気になるたら」「住む」「働く」などの目的別に整理し掲載した。多言語の医療問診票や外国人を対象にした防災情報、各種統計も見ることができ、記述は易しい日本語で、各サイトは多言語にも対応する。

藤分さんは「もはや、多文化共生は、外国人住民ではなく日本人社会の問題。サイトを通してさまざまなコミュニティが双方向で支え合う社会が実現すれば」と話している。「かながわ・こみゆにてい・ねつとわーく・さいと」は <http://www.k-n-i-a.or.jp/kcms/>

## 共生「日本人社会の問題」

は話す。

開設した昨年4月の訪問数（アクセス数）は約千件だったが、12月は約3千件に上った。県立高校の入学制度に関する資料やイベントの検索が多かったという。閲覧者からは「ごく便利」「催しを掲載してくれてありがたう」との声が寄せられた。利用が進む背景には社会の「複雑化」がある。県内で生活する外国人は、ここ数年微減しているが「国際結婚は19組に1組にのほり、日本国籍を取得する外国人も増えている。多様性の進行は、国籍の統計を見ただけでは分からないのが実情だ。

## 外国人住民の健康支援

言葉の壁があっても、適切な医療、予防接種を。外国人住民が医療機関で症状訴える際に役立つ「医療問診票」と、子どもの予防接種についてまとめた「予防接種のしおり」がこの春、多言語で作成された。いずれもインターネットからダウンロードが可能。かながわ国際交流財団が整備した。

### 「予防接種のしおり」「問診票」を多言語で

かながわ国際交流財団

16言語の問診票がダウンロードできるホームページ



言葉の壁があっても、適切な医療、予防接種を。外国人住民が医療機関で症状訴える際に役立つ「医療問診票」と、子どもの予防接種についてまとめた「予防接種のしおり」がこの春、多言語で作成された。いずれもインターネットからダウンロードが可能。かながわ国際交流財団が整備した。

と精神科を加え、リニエアルした。しおりは、感染症予防のために重要な乳幼児の予防接種についての情報が外国人保護者に行き渡りやすく、10言語で作られた。スケジュールや接種を受ける際の注意点をまとめている。県内には、12年12月末現在で約16万人の外国人住民が暮らしているが、医療に関する情報は伝わりにくいが実情だ。言葉が分からないため受診を躊躇ううちに悪化するケースもあるという。同財団は「外国人住民が健康面で不安を抱えることがなくなれば」と話している。

いずれも同財団のホームページ <http://www.kiifp.org/> からダウンロードできる。(柏尾 安彦子)



県内在住の外国人向けに中国語やポルトガル語、スペイン語、英語の4カ国語で非常持ち出し品リストなどをまとめたポスターとちらしが完成した。作製したかながわ国際交流財団は外国人の利用が多い行政機関の窓口やレストランなどに掲示。同財団のウェブサイトでも公開し、ダウンロードできるようにしている。

同財団によると、県内に暮らす外国籍の住民は約16万人。東日本大震災以降、「災害にどう備えているのか分からない、不安を感じている」といった相談が寄せられている。地震や津波がほとんど起

## 4言語で必需品紹介

外国人向けポスター、ちらし



非常持ち出し品を4カ国語で紹介しているポスター

きない国で生まれ育った人も多いため、防災の基本的な知識を広めようと、ポスターとちらしを作った。

被災時に必要な物として①水②食料③携帯ラジオ④下着や靴下⑤タオル⑥ライターやマッチのポリ袋⑦軍手⑧雨具⑨現金⑩パスポート、在留カードなどの身分証明書⑪家族や友人の連絡先⑫懐中電灯⑬医薬品類⑭歯ブラシ⑮などを取り上げた。乳児がいる家庭では、粉ミルクや哺乳瓶、おむつも必要になると説明している。

これらの必要なグッズを日ごろからバッグにまとめておくよう、イラスト付きで分かりやすく呼び掛けている。

また、災害情報などが提供される外国人向けのメール情報配信サービス「INFO KANAGAWA」の登録先も紹介している。

ポスターは4カ国語で一覧になっており、ちらしは4カ国語版がそれぞれ製作されている。

同財団の担当者は「外国人の住民が集まる場所や各家庭に掲示してもらい、防災意識を高める一助にしてほしい」と話している。

ウェブサイトは <http://www.kiifp.org/shuppan/1ea1et>

(佐野 克之)

NHK 2014年8月18日(月)

KIFが、外国人住民からの、「予防接種の種類が多くいつ接種すればいいのかわからない」という声に応じて10言語で作成した「外国人保護者のための予防接種のしおり」について、NHKから取材を受け、朝のニュース番組「おはよう日本」(2014年8月18日放送)で次のように紹介されました。「日本脳炎や結核といった6つの予防接種ごとに、県内で無料で接種できる年齢や必要な回数を説明してあります。また、体調が悪いときは予防接種を受けないことや、接種したあと、子どもの体調が変化したときには医師に相談することなどの注意点も記されています。パンフレットは、「かながわ国際交流財団」のホームページで公開されているほか、県内の病院などに配られていて、財団は、『予防接種の存在自体を知らない外国人も多いと思うので、ぜひ活用してほしい』と話しています

早朝の放送であったにも関わらず、放送後、複数の問い合わせがあり、しおりを入手するために事務所を訪れた人もいました。

東京新聞 2014年7月6日(日)

**横浜**

## 日本に住む外国人親子

# 保育園生活の不安を解消へ



日本の保育園に通う外国人親子を支援するため、かながわ国際交流財団(横浜市)は、保育園での生活を九言語の言語で説明する「入園のしおり」を作った。各保育園が同財団のホームページからしおりのデータベースに入り、それぞれの園の活動に合わせて内容を書き込んで印刷し、外国人に配布できる。県内に限らず全国の保育園が利用可能。

(杉原麻央)

英語、中国語、タガログ語、ベトナム語、カンボジア語、ミオス語などの言語をそえた。しおりには、保育園での食事や服装、けがや病気のときの対応、持ち物を写真を添え分りやすく記している。保育時間や休園日、連絡先など園により違う項目は空欄にしてあり、各園が日本語版を見比べながら情報を書き込む。日本語を十分に理解できない外国人の親は、子どもが友達とけんかしたり、とろんと遊んで服を汚したりしても、園に理由を聞けず不安を募らせやすいという。外国人の子どもが少ない園では、支援が手薄になりがちだった。

制作した同財団の眞江真司さん(左)は「しおりで、親と園が意思疎通できることを期待している。子どもが就学後も十分な教育を受けられるよう、親が日本の教育に関心を持つきっかけにしたい」と話す。

県内に住む外国人は中国や韓国、フィリピンを中心に十六万人を数える。就学前の子どもの数は約十八万人に上り、日本語が必要ない子どもは増加傾向にあるという。

しおりをダウンロードできるホームページは「外国につながる親子のための入園のしおり」で検索。

### 9言語で「入園のしおり」

**かながわ国際交流財団 全国で利用可能**

# 照明灯

長洲一三元知事 率が1970年代後半に唱えた「地方の時代」は流行語になった。今は少子高齢化、地方自治体の財政悪化などを背景に、市民参加・協働による地域自治の必要性が高まっている。「地域の時代」とでも呼べるだろうか▼湘南国際村センター(葉山町)でこのほど、「地域力をいかに育てるか」をテーマに、「21世紀かながわ円卓会議」が2日間にわたり開かれた▼長野県下條村の伊藤喜平村長が講演した。人口は4千人余り。医療費を高校生まで無料とし、若者向け住宅の整備など、思い切った施策で合計特殊出生

率を2.04に引き上げた。公共事業は村が資材を供給し、村民自ら行う。「道普請」という言葉を思い出した▼都市部の自治体が下條村方式をそのまま踏襲するのは無理としても、子どもから高齢者までが元氣な町づくりのヒントがありそうだ。地域自治の主役となる住民の自発的な協力を促す仕組みが不可欠なのである▼現代人はグローバル化や市場原理主義といった巨大なシステムに振り回され、生きているという実感をつかみにくい環境に置かれている。東日本大震災を受け、取り戻す鍵は、やはり地域の暮らしにある。そんな思いをあらためて強くした。

【2013-11-17】

# 文化往来

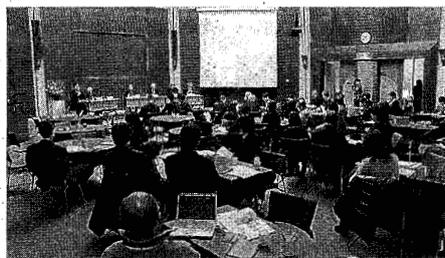
相が「ルーヴル美術館の闘い」と題して講演。1980年代に同美術館の大改造を手がけた経験を踏まえ、「文化への投資は教育や研究開発への投資同様、社会に絶対必要」と訴えた。

「サミット」(か) ミュージアム・サミット、投資拡大など訴え

国内外から美術館関係者を招いて美術館・博物館のあり方を考える「第6回21世紀ミュージアム・サミット」(か)が、神奈川県、日本経済新聞社主催で8、9日、神奈川県葉山町で開かれた。「文化による新しい「コミュニティ創り」をテーマに、活発な議論が交わされた。まずジャック・ラング元仏文化

相が「ルーヴル美術館の闘い」と題して講演。1980年代に同美術館の大改造を手がけた経験を踏まえ、「文化への投資は教育や研究開発への投資同様、社会に絶対必要」と訴えた。

## 21世紀ミュージアム・サミット 美術館のあり方探る



多様な意見が出され、熱気にあふれた会場  
—湘南国際村センター—

記録的な大雪となった8、9日の2日間にあたり、美術館・博物館のあり方を考える「第6回21世紀ミュージアム・サミット」が葉山町の湘南国際村センターで行われた。かながわ国際交流財団などの主催。ミュージアムが社会を愛するテーマに、国内外から参加した美術館関係者や行政の文化政策担当者、一般市民など約120人が、活発な議論を繰り広げた。同サミットは、文化の担い手である美術館、博物館について議論し、問題の共有化を図ろうと2004年に初開催、2年に1回のペースで行っている。

東日本大震災や原発事故から間もなく3年を迎える今回、人と人のつながりを意識し、美術館に求められる機能や作業者求められるものも変わった。こうした中で、「やはり政治が大きな鍵にならねばならない」とも述べられた。私たちがどうすべきかがあるのかを問うてきた」と次回に向けて締めくくった。(下野 健)

「文化」のページは、月・水・金曜日。火・木曜日は、「芸能」のページです

[www.kifjp.org](http://www.kifjp.org)



## 公益財団法人かながわ国際交流財団

**多文化共生・NGO 協働推進センター（財団本部）**

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8

TEL : 045-620-0011 FAX : 045-620-0025

**湘南国際村学術研究センター**

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 湘南国際村センター内

TEL : 046-855-1820 ~ 1822 FAX : 046-858-1210